



いつまでもきれいな海であるために



6月26日、大久野島で、おさかな放流・海岸クリーンアップが行われました。今年も、「海と日本プロジェクト」の一環として、「海でつながる瀬戸内海の観察会」も実施され、過去最多の約170人の参加者が集まりました。

海岸にはペットボトルや発泡スチロールなどのごみがたくさん流れ着いていましたが、参加者のみなさんのご協力により、ごみのないきれいな海岸になりました。拾ったごみは4トントラックいっぱいになるほど。中には砂浜に埋まった大きなタイヤもあり、「こんなものまで!!」「なんでこんなところに!?!」と思うごみもありました。



観察会では、広島県の準絶滅危惧種となっているスナガニや、ハマダンゴムシ、ハマトビムシなどを観察しました。砂浜に住んでいる小さな生き物に子どもたちは興味津々。観察会を通して、「砂浜にごみが落ちていけると生き物たちは暮らしていない。そのためにも海岸はきれいにしようね。」と、環境や自然についてしっかり勉強しました。

最後は海岸からヒラメの稚魚を放流しました。元気に泳いでいくヒラメの稚魚を見て子どもたちは、「泳いでいった。楽しかった。」と嬉しそうでした。また、同日の的場海水浴場ではリフレッシュ瀬戸内が開催され、約400人が海浜清掃を行いました。



掛け声を合図にみこしが動く!! 忠海祇園祭

7月17日、忠海駅前一带で、忠海の祇園祭みこし行事が行われました。江戸時代後期から続いている伝統あるこのお祭りは、重さ600キロもある神輿を左右に傾けたり、空中高く突き上げたり、その荒々しい勇壮なまわし方が特徴的なことから、広島県無形民俗文化財に指定されています。

お祭り当日は、「ちよーっさーじゃっ!!」の掛け声・太鼓の音とともに神輿をかっさながら一日中町を練り歩きます。

お祭りが最も盛り上がるのは、駅前の通りに神輿がやって来る午後3時頃。20歳を迎えた男性「輿守さん」と、女性「輿娘」が一人ずつ紹介されると拍手で歓迎され、神輿を担ぐこっさんにたくさん取り付けられた飾りの「さる」は、無病息災のお守りになるとして見物客に配られました。

また、采配を持ったこっさんの掛け声を合図に動く神輿は迫力があり、狭い小路で屋根すれすれにまわされる神輿は見ているほうがハラハラドキドキするほど。地元住民だけではなく、多くの人を魅了しました。



租税教室 税金ってなんだろう？

7月7日、荘野小学校で、租税教室が行われました。市の税務課職員が講師となり、6年生の生徒が税金の使い道や役割を学びました。学校や公園、コンビニなどの身近なものに税金が使われているか使われていないかを考え、講師の話やうんうんと頷きながら聞き、税金の大切さをしっかりと勉強しました。



全国大会出場者激励会

7月20日、市民館で、全国大会出場者への激励会が開催されました。当日は、全国大会出場者のうち13人が出席し、一人ひとりの決意表明からは、支えてくれた家族や周りの人への感謝の気持ちと、大会に対する強い思いが伝わってきました。



認知症とともに生きる地域づくりを

7月21日、保健センターで、竹原地域医療介護推進協議会と製薬会社のエーザイ株式会社が、「認知症とともに生きる地域づくりに関する連携協定」を結びました。認知症に関する普及啓発や見守りネットワークの構築などに連携して取り組めます。



最後は踊って 踊って

7月23日、忠海駅前一帯で、忠海天神夜市が開催されました。地域の人々の手作りの夜店が並び、ステージでは忠海小唄などが披露されました。どめき踊り（忠海やっさ）が始まると、大人も子どもも輪に加わり、みんなで踊って最後を締めくくりました。

踊って 忠海天神夜市



七夕まつりが夏をよぶ！！

7月2日、竹原駅前商店街で、第28回たけはら七夕まつりが開催されました。晴れて暑い日でしたが、多くの人で賑わいました。思い思いの願い事が書かれた短冊が風に揺られて夏を感じさせ、さらに、並んだ屋台がお祭り気分を盛り上げました。バンド演奏やステージイベントが始まると多くの人が足を止め、一緒に手拍子をしたり歌ったり、手を振って応援したりと、楽しそうな様子でした。



自由な手法で創作活動

交流授業で芸術にふれる

7月14日、忠海小学校で、「～ぶらまちアート～歴史・町・広島竹原藝術祭」の関連イベントとして、交流授業が行われました。イベントの出展作家3人が講師となり、「動物の絵を描こう」をテーマに、小学5・6年生が瀬戸内海の魚をモデルに創作活動を行いました。手に直接絵の具をつけて塗ったり、色画用紙を切って貼ったり、大きな模造紙いっぱい、自由な発想で魚を描きました。

作品は、たけはら美術館文化創造ホールで18日まで展示されます。